	会 議 録
会 議 名	令和7年度第2回丸亀市社会教育委員の会
開催日時	令和7年8月27日(水)10時00分~12時00分
開催場所	丸亀市役所 4 階会議室
出 席 者	出席委員 金澤 泰宏・秋山 いとこ・引田 真人・大村 隆史 白川 常俊・三井 喜代子・逸見 美智子・鈴木 裕美 荻上 健太郎
	欠席委員 西谷 清美
	傍聴人 なし 事務局 末澤教育長・田中部長・村尾課長・林副課長・白石担当長 ・藤本主事
協議案件	議 事 (1) 会長、副会長の選出について (2) 第5次丸亀市生涯学習推進計画(骨子)について (3) 丸亀市生涯学習推進計画に関するアンケート調査について
	報告
	(1) 第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会について
配布資料	【資料1】第5次丸亀市生涯学習推進計画(骨子)
	【資料2】丸亀市生涯学習推進計画に関するアンケート結果 【追加資料1】第5次丸亀市生涯学習推進計画(骨子) 第4章
	施策の展開・抜粋
	【追加資料2】第4次生涯学習推進計画総括
	【資料3】第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会について
事務局	本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
	『令和7年度第2回丸亀市社会教育委員の会』に先立ちまして「丸亀市
	社会教育委員委嘱式」を行います。
	まず、初めに、末澤教育長からごあいさつを申し上げます。
教育長	《開会あいさつ》
事務局	ありがとうございました。
	これより、委嘱状の交付を行います。

末澤教育長より、代表の方に委嘱状をお渡しします。大村委員お願いい たします。

#### 《委嘱状交付》

本来であれば、皆さまに直接お渡しするべきところではございますが、 時間の都合上、代表者の方への交付とさせていただきました。皆さまの 分につきましては、各机上にご用意しておりますので、ご確認ください ますようお願いいたします。

続きまして、初めての会ということで、初対面の方もいらっしゃいます ので、皆さまのことをよりよく知るために、簡単に自己紹介をお願いし たいと存じます。名簿順にお願いします。

## 《委員自己紹介》

ありがとうございました。 続きまして、事務局職員も自己紹介を行います。

## 《職員自己紹介》

ここで資料の確認をいたします。事前にお送りした資料1~資料3と、それらに加えまして、当日配付資料として『第4次生涯学習推進計画総括』と、『第5次丸亀市生涯学習推進計画(骨子) 第4章 施策の展開抜粋』をお配りしております。不足する方はいらっしゃいませんか?それでは『令和7年度第2回丸亀市社会教育委員の会』をはじめます。始めに本日の出席状況をご報告します。本日は10名の委員の内、9名の委員にご出席いただいております。「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第6条第1項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせします。

これより議事に入ります。「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第4条第1項に「会長は、会議を招集し、これを主宰する」とあり、本来ですと会長に進行をお願いするところですが、会長が選出されておりませんので、会長が選出されるまでは引き続き事務局で進行させていただきます。

本日の会議は議事が3件、報告が1件ございます。

それでは議事の①番目、会長・副会長の選出に移ります。「丸亀市社会教

育委員の会に関する規則」第2条には、「会には、委員の互選による会長及び副会長各1人を置く。」と規定されております。いかがいたしましょうか。

特にご意見も無いようでしたら、事務局(案)を提案させていただいても よろしいでしょうか

事務局といたしましては、会長を大村委員に、副会長を引田委員にお願いしたいと考えております。

ただいまの事務局(案)について、いかがでしょうか?

# 委員 異議なし

事務局

「異議なし」の声がありましたので、大村委員、引田委員よろしくお願い いたします。

大村会長、引田副会長から、それぞれごあいさつを頂戴したいと存じま す。

《大村会長、引田副会長 あいさつ》

ありがとうございました。

それでは、大村会長にこれからの議事進行をお願いしたいと存じます。 大村会長、よろしくお願いします。

会長

それでは、私がこれからの議事を進めさせていただきます。

議事②番目の「第5次丸亀市生涯学習推進計画(骨子)について」、事務 局より説明をお願いします。

事務局

これより、②第5次生涯学習推進計画(骨子)についてご説明いたしますが、その後の協議事項である「③丸亀市生涯学習推進計画に関するアンケート調査結果について」も、計画に関係することになりますので、アンケート結果についても、計画骨子の説明の中でまとめてご説明させていただければと思います。

それでは、お配りした「第5次生涯学習推進計画(骨子)」をご覧ください。

## 【事務局説明】

これは、回答者本人が介護を必要とする人や障がい者なんですか? A 委員

回答者本人が当事者かどうかまでは聞いていません。ご本人という場合 事務局 もありますし、当事者がご家族にいる方という場合もあります。

A 委員 じゃあご本人がこの支援を必要としているかどうかを判断することは難 しいですね。分かりました。

事務局 【事務局説明】

会長 はい。皆さん、ご清聴ありがとうございました。大変膨大な資料を整理し ていただいて、大変分かりやすい報告になったかなと思います。

> 私の方から1点付け加えますと、今回骨子の資料で、特に第1章、第2章 あたりの内容というのは、前年度の社会教育委員会の会議で多少議論し てきたところですが、今回は特に第3章、第4章について重点的に話を していただけたらと思います。

> 骨子で言うと8ページですね。第3章の取り組みの体系とその現状とい うところについて、具体的に議論していければなと思っております。

A 委員 今聞いた中で思ったのは、「学び」をどう捉えてるのかという根本的なこ とを議論する必要があるんじゃないかという気がしました。

> ここでは、学びっていうのが、誰かが物を教えるということが前提で話 が進んでいて、基本的に講座をするとか、人材バンクを活用するとか、既 に有るようなものを、今はうまく活かせてないから、どう活かすのかっ ていう話に片寄ってるよう感じがしました。そうすると新しいことを何 か生み出すことができないんじゃないかと思いました。

> アンケートも重要ですが、やっぱりこういった固定概念があるから、講 座によって得ることが学びっていう感覚があって、その範囲内での内容 のアンケートになっていると思います。

> 知識の授受っていうことを学びだと捉えた場合、やっぱりここから何か 発展させることは難しいんじゃないかと思ったんですけど、皆さんはど うでしょうか。

学びのイメージや、生涯学習という言葉が指すものについて、これは少 し固定的な印象を与えたというご意見ですが、例えばアンケートの中で 「あなたは生涯学習という言葉から何を連想しますか」という問19の、

会長

項目は 1 つ、市が捉える生涯学習の内容、やり方の参考になるのかなと 思います。確かに知識のやり取りとか講座っていうものがかなり市の政 策の中では、よくある形になるのかなと。これは行政計画の策定になる ので、このまなび文化課の取り組みを、生涯学習という形で展開させて いくにあたって何が出来るかっていうところの計画になりますので、講 座だとか、知識の伝達とか授受、情報提供等、行政が出来ることに確かに 片寄っていくものなのだろうと私も思っているんですが。

項目としてはですね、その生活を楽しみに心を豊かにするとか、学校での学習活動としての学校という分野も含んで考えられている。また、健康増進、体力作りっていうのは、形によっては知識の授受でもあるし、何か体を動かしたい、体験的なこと等も入って来るのかなと思います。

なので私は必ずしも「学び」について狭い見方をしてるなという印象は 実はそんなに感じてはいないんですけれども、この計画を見た人が、そ ういう印象を持つ可能性があるということ自体は、しっかり考えていく ポイントになるのかなと思います。

そういった印象を、変えていくというか、計画にどのような形で反映させることが出来るかなと思うんですけども、何かお考えはありますか?

A 委員

策定段階から何かありますか?と言われると分からないんですけど、私にはイメージするものがなくて、私がここにいる理由っていうのを考えると、例えば地域で活動されている方がいて、その専門の中で、「あ、これが必要だな」っていう風に思ってるものは私自身にもあるんですよね。「行政が後押ししてもらえたらうまくいくのに」というもの。だから例えばそれを実現するのに、計画のこの部分に当てはまるのかな、という話は出来ますが、計画のこの部分をどう変えますかっていうのはちょっと難しいです。

計画はある程度決まったものだから、何のために私がいるのかなと少し思いましたけど、例えば私が具体的に1つ思ってることは、例えば私は不登校の活動をしていますが、大体今香川県で2000人ぐらい不登校の人がいて、中学生だと10%くらいになりますが、保健室に通っているような人も入れたら3倍ぐらいいる訳ですよね。そうしたら、クラスで1割ぐらいの人が不登校状態ということになって、やっぱり学びの機会っていうのがすごく失われていて、それはすごく大きな問題になっています。でも、例えばそこにケアマネージャーやエデュケーションマネージャーみたいな人がいて、ホームエデュケーションが出来るように、色んなオンラインの学習機会でこういうのがありますよとか、こういう地域でこ

ういう学習機会がありますよって繋いでくれて、それぞれにプログラムを作る。アメリカではそういう風にホームエデュケーションで、この子の興味があるものは何かっていうプログラムを作る人がいて、家庭と連携してやるっていうのがあるんですが、そういうものが必要なのかなと思いました。

だから講座が色々あって、「さあやりたい人どうぞ」とかではなくて、学びに繋げる人が必要だと思います。あなたのためにこういう学習がありますよっていうような仕組み作りは、1つ私は提案したいところだなと思っています。それはやっぱり、私のような一部のNPO法人がやってもなかなかうまくいかないので、例えば丸亀全体で、そういう子どもたちの学びを確保するという意味で、既に有るリソースを使って、繋げる役割の人を置く仕組みを作るのはどうかと思います。

まずは、外に出られない家庭に訪問するような、例えば大学生くらいの若い人が訪問するような、サポーター制度みたいなのが出来たらいいなと思っていて、私もそういうことをやろうと考えていますが、やっぱり市全体での仕組みとしてあるとやりやすいなとは思います。

大きな政策の、基本を変えるようなことは私には難しいですけど、こういう仕組みを考えて、計画のどの分野にこれが対応するのかっていうのはできると思います。

会長

まさにそういったことを、委員の皆さんにやっていただく場だと私は思っています。今A委員のおっしゃったような、大変具体的な案もありましたけれども、そういった、皆さんの身近なところで考えられることで良いので、必ずしもこの枠に当てはめてご意見をいただく必要はありません。個々の取り組み等と関連付けてお話しいただくのが大事かなと思います。

ありがとうございます。今の話ですと、対学習者というよりは、学習者を とりまく環境に対しても、政策として捉えていく必要があるんじゃない かというようなところ。それは必ずしも学びの形というのを限定しない 政策のあり方にもつながっていくかなという感想がありました。

A 委員

今の話を当てはめるとすれば7番ですかね。

会長

2番にも当てはまりそうですね。

3番も今回のキーだなと思います。基本施策の3番ですね。ちょっと関連付けて私からよろしいですか。この基本政策の3番の計画策定と事業の

実施という所についてです。この計画というのは何を指しているか伺え ますか。生涯学習推進計画を指しているのですか。

事務局

タイミングが合えばそれもそうなんですけれども、今回の5次計画というよりは、個々の事業の計画という意味合いの方が強いです。

会長

もし第 5 次計画にもそういった方の意見を入れていくのであれば、改定 スケジュールの見直しも必要になってくるかなと思ったんですが、個別 事業っていうことであれば、例えばその市内で活動して生涯学習支援団 体が、年間計画を立てる際に、そういった当事者の方々が入る場を、行政 が作るといったイメージですか。

事務局

行政が実施する施策を考える時に、それに参加する当事者の方から事前 にご意見をいただくようなイメージです。

もしくは、その事業を実施した後に参加された方からご意見をいただいて、次回の事業に反映していくという風なイメージです。

会長

これに関しては第4次の計画とは少し違う文脈から出てきてると思っていて、もしかしたら少し議論して深めていくことで、その事業をより確かなものにしていければと思ったので、質問させていただきました。

B委員

私は具体的なコメントというより、少し全体的な枠の整理を、自分も理解をしたいなという意味で、コメントをさせていただきたいなと思います。

今回いただいてる資料と先程のお話を伺って大きく分けると、推進計画 の中に全体としては3つのパートに分かれるのかなと思います。

1つ目が理念や基本目標で、やっぱり今回のこの第5次計画で、どういう 魂を込めるかっていうところだと思います。個所でいくと7ページの基本理念の部分で、ウェルビーイングの向上のことが、生涯学習推進計画 の根幹として書いてあるんですけども、第4次計画までは、個人の生涯 学習の充実というところが中心だったのかなと思うんですが、今回の理 念の案は、「誰もが学び続け幸せで豊かに暮らせる地域社会の実現」なので、「幸せで豊かに暮らせる」を言い換えると「ウェルビーイング」になるかなと思います。その実現を支えるためには、個人の学習というだけでなく、やっぱその地域全体のという考え方を強く打ち出そうとされているのかなという風に受け止めました。

そうなると、生涯学習や地域社会、ウェルビーイングって何なの?といったところも、時間が許される中で、この基本理念の部分はしっかり議論した方が良いかなと思いました。これが1点目です。

2つ目の枠になるのが、具体的な施策の展開です。施策に関しては、やっぱり是非、実際に地元の委員の皆さん、実際にここで暮らしをされて活動されている方の具体的なお話も取り上げながら、皆さんで議論ができたらいいなと思いました。その中で少し気になるのが、やっぱりまだ全体的に市民が参加者という意識が残っていて、この理念を考えると、市民が作り手側になるという意識をもって、取り組んでいく必要があります。

ですから、例えば何をしたらもっと参加者が増えるか、ではなくて、むしろ1人1人がその担い手なり、作り手になるということを、今回難しいところであると思いますが、施策としても、せっかくこういう形でアンケートも取って見直していくので、この委員の会の中でも議論ができたらいいなと思いました。

それで、これは計画なので、行政の性格上、計画においては常に定量的な目標が求められることが多いと思いますが、多分第 4 次の総括でも、どうしても定量的な目標を掲げて、目標に対して達成率はどうだったのかというところに目が行きがちで、それは避けては通れないと思うんですが、今回、掲げる理念が「ウェルビーイング」になると、1人1人の幸せという正解がなくて、定量化できない部分を大切にすることが必要になってきます。それを目標と呼べるのかどうか分かりませんが、少し定性的な目標や、若干抽象的なものであっても大切にしたい。またそういったことが、施策の展開のところでも議論ができて、落とし込めるといいなと感じました。

最後の3点目なんですけれども、少しそれと関連して、第5章の推進体制と第6章の進捗管理のところ。例えば第5章の体制図についても、2つ目の部分と同じく、市民が上に来ているのも、実際お客様だなっていう雰囲気が正直あります。ここに「参画」という言葉が書いてありますが、参画の意味には例えば「担い手」とか「作り手」っていう要素もあると思いますので、そういったこところを上手く表現していけるといいなと思いました。あと第6章進行管理のPDCAですが、定量的な目標を掲げて達成率を見るやり方では、特に生涯学習とかウェルビーイングといった部分を測ることが難しく、PDCAでは正直厳しいなと思ってます。

人生計画通りにいったら苦労しないので、ある意味「幸せ」には答えがあるわけでもないし、そこにどうたどり着くかというところも、人それぞ

れ自由に取れると思うので、もしかすると、行政的には厳しいかもしれないですけど、PDCAには縛られないということも、社会教育委員の議論の中で上手く考えたいです。それを放棄するという意味ではなくて、計画なのである程度縛られてしまうところもありつつも、大切にしたいところは、必ずしも PDCA でないんだということを、うまく皆さんと考えられると良いなという風に思いました。すこし長くなってしまいましたが、よろしくお願いします。ありがとうございます。

会長

今の B 委員の話を伺って、理念の文言というのは変更の余地があるので しょうか。

事務局

はい。変更できます。

会長

はい。ですので、今、いろんな受け取られ方をすると思うんですけれど も、どういうところに重きを置いていくのかというところが、委員の中 で重要視すべき点だと思えると思います。

副会長

生涯学習という言葉を非常に狭く考えるか、広く考えるかによって、ずいぶん変わってくると思います。私は、生涯学習っていうのは、自分が既に身につけているものを更に伸ばす、または、自分が身につけてきたものを活かすという、自分自身の為と、他の人の役に立てるようなことができるという、両面があるんじゃないかと思っています。

ただ一般的に学習っていうと、やっぱり昔からの学校教育のイメージがあって、教えてもらう側、教えてあげる側っていう、2つがあるということが、浮かんで来がちだと思います。

ですが、この生涯学習の推進計画の基本理念で、こういう地域社会の実現っていうことを前面に出すのであれば、やはり今言ったような自分の力を更に伸ばす、それを活かすっていうものが生涯学習なんだよっていうようなものを、もっと前に出してこないと、皆の捉えているイメージがバラバラになってしまって、もしかしたら前に進みにくいんじゃないのかなと思うんです。

それと、もう1つ、基本理念、目標、施策が載った計画の体系ですが、この具体的な施策を考えていく時に、例えば基本目標の、「誰もが学び、可能性を伸ばせる環境作り」のために、3つの基本施策があると。それで、その次の具体的な施策のポイントが9ページのところに載ってますよね。このポイントを実現するために、まなび文化課はこうしますと言い切る

文をまず作ってみたらどうでしょうか。それで、そうするためには具体的にどうやったらいいのかというのは、また細かく出てくると思います。まなび文化課がやります。教育委員会、学校教育がやります、行政がやりますっていうことを、まず言い切った形のものを作ってみて、じゃあできるかどうかというのは、今度具体的に考えていけると思うので、そういう風な検証の仕方をしていくと、より皆が話しやすいものができると思うんですけれども、いかがでしょうか。

会長

そうですね、まなび文化課の担当者としてのスタンスっていうのをもう 少し、見える形で示していくことはすごく、計画を推進していく上で大 事じゃないかというようなお話でした。

確かに知識を得る、活かすっていうところは、教育基本法の理念の中に ある生涯学習の基本的なフレーズですので、そこに力を入れるっていう のは非常に大事なことかなと思います。

今出てきたご意見では、そういう知識の習得とか、知識の扱いだけが生涯学習の仕事なのかっていうところも、考えていく必要があるということでした。生涯学習を実現させるためのサポートや制度というのも、生涯学習政策の中核に必要になってくることだろうと思いますし、生涯学習の主体である市民を、行政計画という枠でどのように捉えて示していくかっていうのは、非常に大事なことだと思います。

それと、PDCAについては、私社会教育主事講習を担当してる身なんですけれども、絶対に扱う内容なんです。ただちょっと古いなっていう印象もありますし、これ精神管理の理念で、トヨタさんとかが確か出している、良い工業製品を作り出していくための枠組みという印象なので、それが生涯学習にフィットしているのかって言われると、あまりそうではなくて、どちらかと言うと、計画を運用していくためのものになっていて、他に良い方法があれば考えていく必要があると思います。

最後に、先ほどのご意見で、具体的施策を言い切った形で示すべきということに関しては、この次の社会教育委員の会で、そんな形で示されていくでしょうし、それに付随して、この評価の部分っていうのも、ある程度の明確化がされていくと、そういう手順になっております。

他にご意見はございますか。ちょっと聞き方を変えてみますね。C 委員は、いわゆる子育て世代や子どもたちの支援をされていく中で、今回のこの計画の骨子とか施策を拝見なさって、どういうところに関心がありましたか。

## C委員

私が初めてこの書類を読ませていただいて、この新たな計画の文面を読んだ時に、「学び続ける」っていう言葉が、すごく強いなと思いました。なんとなくのイメージですけど、「学び」っていう言葉がどうしても学習的な感じの捉え方をしてしまいがちというか、そう言った時に、強制的なイメージ、印象を持ってしまって、もう少し柔らかい表現で伝えていけないかと思ったことが1つ。

あと、基本施策のところで、2番に人材育成っていうのがありますが、3番のところにも人材育成っていうのがあって、この違いが分かりませんでした。この2つの違いに何か意味があるかっていうことです。

あと、アンケートの結果で 3000 人に配って 800 人ぐらいの返答率の中で、60 代の割合が一番多かったんですけど、この割合は 10 代から 80 代・90 代までの人に配った割合が同じぐらいの率で配ったのでしょうか。10 代の回答率が少ないなと思いましたので、結構大人の方に向けた設定なのでしょうか。これからは 10 代の方たちにもやっぱりこういう活動を知っていただいて、将来的にその担い手になってくれる人材が結構いるだろうと思いますが、知らない方が多いんじゃないかと思いまして。こういうアンケートを実施することで、そういう活動を知っていただく機会になると思うので、もう少し 10 代とか 20 代の方に回答いただけるようなアンケートが実施できたら活かしていけるんじゃないかなと感じました。

会長

とても具体的なご指摘で、見直しポイントが分かりやすかったです。

C 委員

子どもの意見が計画に反映されたらいいなと思いました。

D 委員

一市民として私このアンケートをいただきまして、回答させていただいたんですが、私の立場ならこうなんだけど、やっぱり今おっしゃったような、年代別に学びに対する回答なり、それから悩みなり、すごく多岐に渡っていると思うんですね。

だから、アンケートを集計するのも大変な作業だと思うんですが、どういう意見、どういう世代の意見が欲しいのかっていうのを分けるのであれば、その出し方にも工夫が一つあれば、もっと個人個人が、この世代の方はこういうことを考えてるんだなっていうのが分かるんですが、大きくまとめられているので。私みたいに仕事は毎日行ってない人もいるし、ご家庭のことをしながら働いてる方もいるだろうし、そういう方がどういう形で学びたいのかという意見もまた違う形で見えてくるのかなと思

います。

会長 回答者のインタビューですね。ありがとうございます。私もこのアンケ

ートすごく緻密にされていて、いい仕事だなと思ったので、ぜひこのアンケートの報告書を単体でで出すっていうのも、一ついいやり方かなと

思います。

ちなみにこの無作為抽出の時は、市の年齢層ごとに比率を設定して向け

たんですね?

事務局
そうですね。年代はある程度ばらけるようにという事で設定はしており

ます。ただ、それが均一的になってるかどうかっていうところまでは分

からないですけれども。年代が偏らないような抽出の仕方はしています。

A委員 回答者が20代何人とか、そういうことは分かりますよね?

会長 配ったときの比率ですか?

事務局

配った時の比率までは分かりませんが、回答していただいた方の年代は

問2番で出ています。

会長 これは多分実際の丸亀市の年齢構成に結構近いんじゃないかなと個人的

には思うんですけど。

A委員 やっぱり高齢者が多いですね。

会長 | どこの自治体もこうなりますね。そもそも人口の構成として若い世代が

少なくなって、回答が来ないという状況ですね。

A 委員 丸亀は 60 代以上が 3 割ぐらいじゃないんですか?だからアンケートは

50%以上の人が60歳で答えてますけど、実際の市民の層としては3割だ

から、ずっと多く、高齢者が回答してるんじゃないでしょうか?

たけれども、少し慎重になるべきところがあるなという風にも思いました。 学習形態をどんなものを求めますかという質問で、インターネット

と答えた人が多いですが、インターネットじゃないと学ぶ時間が取れな

いとか、ネガティブな理由でそれを選んでる可能性もあったりして、できるんだったら対面で参加したい、勉強したい、お金と時間があるんだったら大学で何かやり直したいとか、そういうニーズも絶対あるので、これを絶対の結果として取るのもちょっと難しいなとも思いました。にしてもこのアンケート結果は、見るだけでもすごく思うところがあったので、この場に限らず、何かに活かせそうだなと感じました。

E委員はいかがですか。

#### E 委員

アンケート結果を拝見させていただきまして、学ぶっていうとやっぱり 先ほど他の皆さんもおっしゃられていたように、ちょっと硬いイメージ がありまして、「学校」、「学ぶ」、「学習」というようなキーワードがちょ っと強いと思うんです。それで、色々な、学校、地域連携とかそういった ところでは、子どもたちも学びますが、ある意味大人たちも、子どもたち の成長とか、そういったことを学んでおります。

PTA も、コロナがありまして、やっぱりバトンパスが課題で、3年後には 私も PTA にはいないんですけど、そのカウントが始まってる方もいらっしゃいます。それと、コロナで行事が潰れたというようなことがありましたら、やっぱり地域にそれが伝わってる所があるし、逆に、もう、PTAって何だろうか?ていうようなお考えの方が、仕方なく活動したというような形もありました。地域での連携を進めていく上で、人と会うということが、やっぱり学ぶことに繋がってくるのかなと思います。

今、コミュニティには、各小学校、中学校でお世話になってることがたくさんあります。しかし、コミュニティの担い手っていうのがやっぱり大変不足しておりまして、PTA終わったらどうしようか?ということを考えたときに、地元のコミュニティに来たら良いじゃないか、というような話とか、そういった方も、一部いらっしゃいます。

しかし大半は辞めていってしまうっていうような現状があるので、こういう、地元、小学校と同じ数の17コミュニティありますので、そこを繋いでいった上で、生涯学習という学びに繋げていけるネットワーク、それと人材発掘、人材継承と言いますか、そういった形で進めていかないと、空白ができるかなと思っています。

今子育てしている各家庭を見ると、やっぱり時間配分っていうのがないような現状で生活されてると思います。子育てが終わって、さあ何しようかっていう方もいらっしゃいますので、そういう方にバトンを繋いでいけるような、市内丸亀市全体としての考えがうまくいけば、生涯学習にも繋がっていくんじゃないかなと思います。

会長

本当に生活に身近な分野ですよね、生涯学習。なので、暮らし方とか時間の使い方とか、そういったものと政策のあり方って切っても切れないものだと思います。まさに PTA 役員を終わった後どうしようとか、そういう層が地域にいるっていうことが分かるだけでも、行政としては非常に大きな収穫です。貴重な意見をありがとうございます。

A 委員

ちょっと、いいですか?皆さんの話聞いてて、そのやっぱり理念に「学 び」が入ると強制感があるかと。自分の力を伸ばすとか生かすとか、社会 貢献を入れたいんだな、とか考えたら、例えば「誰もが学び続け」じゃな くて、「一緒に成長し続け」の方が、学びの要素も入ってるし、成長する ってことは、勉強っていうだけじゃなくて、日々生活する中でちょっと した気づきがあったり、そこで少しアップデートしてみたりとか、もっ と何か軽い感じになるのかなと思いました。それと、さっきおっしゃっ た、子育て世代が忙しいから落ち着かないとすぐに学びはできないって いうことについて、それも私が親の会をよくやるからなんですけど、親 同士が色々愚痴ったりすることもあるんですけど、その中で他の人考え に触れることで、あ、自分はちょっと凝り固まってたなとか、こうしなけ ればいけないってすごい思い込んでたけど、もうちょっと気持ちを楽に して子どもに向き合ったらいいんだなとか、そういう学びもあるんです よね。そこで自分の軌道修正をする。それもすごい学びなんですけど、 「学び」の定義をしようとすると、すごく幅広いというか膨大になるか ら、やっぱさっき何回か出た「成長する」っていうのを、理念に入れるの も1つの考えだと思います。

会長

学びの形はフォーマルな物だけじゃなくて、日常生活の中の人とのかかわりの中で得られるインフォーマルなものを当然含めてる分野になりますので、学びっていう言葉に対するプレッシャー感とか強制感みたいなものも当然あると思いますから、そこでどう調整するかというところですね。

D 委員

幼児教育の方からなんですけど、遊びの中でも学びはあります。学びって言ったら固く聞こえるんですが、やっぱりそれは楽しいから、やりたいからやって見て、「あ、面白かった」って感じて、それがまた学びになって、その子の経験として積み重なって行く。それは子どもだけじゃなくって大人も、私も初めてのことは、初めはできるかなって思っても、やってみたら楽しいじゃないって思うこともあります。大人になっても、

そういうきっかけを作ってあげる、今までしたことない方も何かやって みるきっかけになるような、そんなことも学びの1つなので、固くじゃ なく柔らかく、学ぶ事は楽しいんだよっていう事を、市民の皆さんにも 分かって頂けたら。忙しい人に「何でこんな忙しい時に学びなんて」って 思わせるんじゃなくて、知らない事が積み重なって楽しくなって、それ がまた広がって、人と繋がっていったりする事につながる、ということ を伝えられるような思いが最初にあれは、とっかかりが柔らかくなるか なって思う事があります。

#### A 委員

特に不登校の子は、すごいプレッシャーがあって、何も学んでませんっていうのがあるから。理念で「誰もが学び続け」っていうのを出すと、学び続けてない自分はもうまともな市民として生きてはいけないのか、って受け取られてしまうかもしれないですよね。

誰もが学び続けるっていうのはすごくいい事で、それはすごい健康な市 民はすっと入ってくる。私も最初はここに引っ掛からなかったんです。 自分は学ぶ事が好きだし、日々学ぶっていう事をすごくしているから、 何とも思わなかったんです。だけど、ある意味停滞してる人っていうの は、引っ掛かるのかなって思いました。

違う視点から行くと、忙しい 20 代のお母さんとかお父さんなんかは、そんな暇なくて、なんか理想ばっかり言ってるなって、そんな感じになる。もうちょっとこう、誰でも、例えば赤ちゃんでもできるよっていう雰囲気を出せるのがいいですね。

## 会長

少し時間が伸びそうなのですが、せっかくなので、あと 2 人、まだ発言 頂けていない方から伺いたいと思うんですが。よろしいですか?

#### F委員

アンケートの回答は 60 代が結構多いですが、10 代から 30 代までの若者は、生涯学習というフレーズにあんまり興味がないっていうか、固執してないような、自分は関係ないという感覚があるんじゃないかなと思いました。

私も 2 年間小学校の校長で、地域と関わることがすごく多かったんですけど、地域の方は、イベント企画したり、ミシンだったり野菜作ったりだとか、色々と協力してくださっています。小学校がこんな風に地域の方と関わる機会があるっていうところも、生涯学習じゃないかなと思ってます。

それと、今中学校で、3年生が赤ちゃんと触れ合う機会を設けていて、そ

ういうのも全て含めて生涯学習だし、不登校の子に照準当ててどんな事ができるかっていう事を考えると、それはそれでまた、色々とやることが具体的に出てくると思います。

このアンケートに答えるっていう事だけで考えると、10代とか20代、30代っていうのは、すごく答えづらい内容じゃないかという気がしています。例えば直接選んで、どうなのって質問するとか、意見を聞く機会があったら良いと思います。

会長

アンケート作成の時点で、もう既に 10 代の方が答えづらいものになっていた可能性もあるということなので、例えば可能であれば学校教育課の方でやっている調査や、子どもたちの実態が分かる調査の結果なども、これを機に一度見てみて、具体施策のポイントを、そういう視点も持って今後検討して行きたいと思いますね。

G委員、最後に何かあれば、発言頂ければ。

G委員

はい、今日は皆さんの意見を色々聞いて、とても自分にとって学びになりました。わたしは B&G さぬきというところで、貧困家庭のお子さんをターゲットにお預かりしてるんですけれども、先日土居保育所のほうで、児童館祭りというのがありまして、そこで B&G さぬきの子どもたちが、いつもは先生や大人たちからしてもらうことを、自分たちが主体になって、そこに来る子どもたちを楽しませるという事業があったんですけれども、子どもたちは、たくさん来るかな、何人来るかなって言いながら、お土産やプレゼントを作ったり、工作を一生懸命したりする姿を見て、とても感動しました。児童館の活用についても、生涯学習のことにつながっていくと思うので、これからも皆さんと一緒に話し合っていきたいなという風に感じました。ありがとうございます。

会長

私、B&G さんの取り組みによく関わることがあって、本当に子どもたちが 主体的に活動してる姿を拝見すると、生涯学習の主体なんだなっていう ことを強く感じる事がありますので、そういった主体も、生涯学習に繋 げられるように促せることができたらなと思っています。

皆さん他に意見がなければ、協議の部分は終わりにして、残りの報告の 部分についてご説明頂ければと思います。

事務局

【事務局説明】

## 会長

はい、ありがとうございました。第 47 回は山口、第 48 回が香川。今は香川で企画を練っているところなんですけれども、シンポジウムやパネルディスカッション等で、相談して頂きたい方、推薦したいなという方がいらっしゃれば、是非ご協力頂ければなと思います。

最後にその他ですね。何かあればよろしくお願いします。ありませんね。 ありがとうございます。では、今日の社会教育委員の会は以上といたし ます。

#### 事務局

ありがとうございました。次回の会議は9月後半から10月頃を予定しています。後日日程調整をさせていただきますので、都合悪い日がもう既に決まっている方いらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願いします。以上で令和7年度第2回丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。委員の皆様、ありがとうございました。